

ホタル自然繁殖へ 門川高にもビオトープ

ホタルの完全繁殖に成功している門川町・門川高(隣町)を養育員449人、総合学級、サイエンス・サイエンス系列、ホタル研習班の生徒たちは、校内にホタルが生育できるビオトープ(生物生育空間)を完成させた。自然繁殖を目指し、土にまでこだわった作り。生徒たちは「安心を享受されるような空間になれ

ば」と期待を膨らませている。ビオトープは中庭にあったコンクリート製の池(縦約9m、横約8m)を活用。昨年10月に構想スタート、今年夏休みから作業を本格化させた。繁殖に適しているとされるコンクリート土(赤土と真砂土)を池に入れ、雑草をなくす。大豊のゴケを敷き詰め、水が流れをくぐるための



ホタル繁殖のため土や水の調れなどにこだわったビオトープと門川高生たち

ポンプも設置。水のろ過装置は生徒たちの手作りという。

炎天下の作業はつらく、数十分のコンクリートをつくる際に手の皮が割れたことも。それでも生徒たちは、赤土を運供した福岡市北山町やちみり奈の土杉洋子さん(88)、真砂土を提供した同市の花田輝子さん(88)らへ感謝の気持ちを込めながら語った。

1月14日、自分たちで卵をかえしたコンクリートの幼虫(卵)を放流。今後毎月、2月に約1匹ずつ放流予定で、開網など機が休むころには産したホタルは、5、6月に羽化も予定。3年生の新立直葉さん(17)は「ビオトープづくりは貴重な体験ができて、環境保全の意識も高まった。繁殖してくれたらうれしい」と語っていた。

(日田支局・櫻坂功一)